



コスモ・スクールし うすだ

一人一人が輝き つながり 未来を拓く

残りの「2割」を、子どもたちの確かな歩みに。

いよいよ3学期が始まりました。登校日45日。この「45」を「まだある」と感じるか、「もうこれだけ」と感じるか。子どもたちの心も様々でしょう。本年度の全登校日は202日。3学期は全体のわずか2割です。すでに8割の月日を共に歩んできたのだと思うと、この冬の出口までの時間はとても愛おしく、瞬く間に過ぎてしまうものに感じられます。

保護者の皆様の見守りのおかげで、欠席者も少なく順調なスタートを切ることができました。心より感謝申し上げます。今学期はまとめの学習や行事が目白押しですが、それらは今の学年での積み重ねを確かめ、次の一步を踏み出すための大切な節目となります。

あわただしい日々の中でも、子どもたちが「自分はこれだけできるようになった」という自信を静かに蓄え、進級・進学に向けて心の根っこを深く張っていけるよう、一人ひとりの歩みに寄り添っていきたいと思います。

また、感染症に関わる情報発信をアップデートして参りますので、感染症への備えなど、今学期も変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

響き合う「ありがとうの連鎖」

厳しい寒さが続く朝、登下校を見守ってくださる見守り隊の方々へ、12月23日～25日の三日間で5、6年生からメッセージカードを添えた簡易カイロをお渡しました。日頃の感謝を、子どもたちなりの小さな「形」に託したものです。後日、それを受け取った見守り隊の方から、温かなお手紙やお言葉をいただきました。「この度は、大変心のこもったプレゼントをありがとうございました。これからが一番寒くなる時に、このような心のこもったプレゼントを皆様からいただき、体も心も足もあたたかになります。（後述割愛）」という、思いがけないほど深い感謝の言葉でした。

私たちが感謝を伝えたつもりでいたのに對し、見守り隊の方からもまた、深い感謝が返ってくる。この「ありがとう」に「ありがとう」が返ってくる光景に触れたとき、そこには単なるマナーを超えた、日本人が古来大切にしてきた「和」の精神が息づいているのを感じました。

日本には「おかげさま」という美しい言葉があります。自分の存在は自分一人の力ではなく、周囲の支えやご縁の中に生かされているという謙虚な自己認識です。「こちらこそ」と返る感謝の言葉は、まさに「今の自分が心地よくいられるのは、あなたのおかげです」という、互いの存在を尊び合う心の響き合いに他なりません。もし今の支えを「当たり前」と思ってしまえば、こうした感謝の響き合いは消え、周囲との心の交流もどこかぎこちないものになってしまう気がいたします。

だからこそ、今回のような感謝の連鎖を経験することは、子どもたちにとって何よりの道徳的な学びとなります。自分の差し出した小さな善意が誰かの力になり、それがまた自分のもとへ温かな言葉として還ってくる。この循環を実感することは、一方が与え一方が受け取るという関係を越え、対等な「共生」の精神を養います。また、効率や損得ばかりが優先されがちな現代社会において、あえて言葉を重ねることで生まれる「心のゆとり」や「余韻」の尊さを知ることは、子どもたちの生涯を支える豊かな感性となるはずです。

子どもたちの差し出したカイロは、単に手足を温める道具ではなく、地域と学校を結ぶ「心と心の握手」となりました。見守ってくださる地域の皆様。こちらこそ、皆様の存在によって、子どもたちの安心と豊かな心が育まれています。冷たい風の中でも、感謝のこだまが響き合う場所には、春のような陽だまりが生まれます。そんな温かな地域を、これからも皆様と共に作っていけることを心から願っております。



校長室から



二学期終業式に、「蓄えの冬」「感謝の冬」のお話をしました。

このお休みの間に、これまでの学びを振り返って、蓄えられていることをしっかり確認できましたか、「ありがとうございます」と感謝することはできましたか。

さて、ここで問題です。2月にイタリアのミラノ・コルティナで国際的なイベントが開催されます。それは何でしょう。

冬のオリンピックですね。2月6日から22日の予定で行われます。日本から多くの選手とコーチが参加します。長野県はスキー、スケート、カーリングなどが盛んな地域です。皆さんはどの種目に興味があり、誰に注目していますか。

校長先生はフリースタイルスキーのモーグル競技に注目しています。

モーグル競技は240mほどのコブのある急斜面をターンの美しさと、エアと呼ばれるパフォーマンスの完成度、そしてタイムで競う競技です。優勝争いに絡む選手はそのコースを20秒前後で駆け抜けます。シングル競技に加え、ミラノではデュアルと呼ばれる2人で同時に滑るガチンコのかけっこのような競技も追加されました。そして、先生が注目している選手は、フリースタイルモーグル競技に出場する堀島行真選手です。

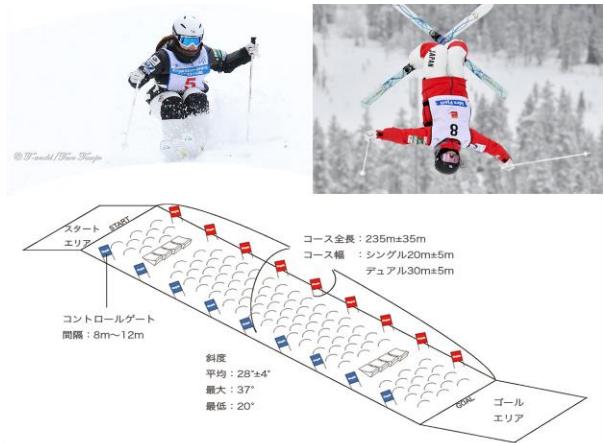
堀島選手は今シーズンのワールドカップ第一戦で世界一になりました。しかし、過去2回出場したオリンピックではタイトルをとることができませんでした。それでもあきらめることなく、オリンピックでの世界一を目指して、日々トレーニングを重ねています。

堀島選手は隣の岐阜県の生まれです。小学校の頃からモーグルをするために環境の整った長野県でもトレーニングをしていました。ナショナルチームに選ばれてからはスイスやカナダ、オーストラリアで仲間と共にその技術を磨いてきました。これまでの蓄えた力をラノの地で発揮してほしいと応援しています。

校長先生は堀島選手も、その力をじっと「蓄えてきた人」だと思っています。ワールドカップで優勝しても、現状に満足せず、海外でカナダチームと共に練習するなど新しい力を得るために挑戦し続けています。もちろん家族や支援してくれる人の応援があってのことです。「感謝の気持ち」も忘れずに取り組んでいたのだと思います。

このオリンピックには長野県の選手も代表としてたくさん出場します。

皆さんもこの冬のオリンピックに注目して、代表選手の蓄えている力を感じながら応援してみましょう。



学校評価アンケートについて

師走のお忙しい中アンケートへのご回答をいただき、心より感謝申し上げます。現在、皆様の声を大切に集計、分析させていただいております。その後、全職員やCS（コミュニティ・スクール）委員と共有、検討をしてまいります。結果につきましては、年度内にフィードバックさせていただきます。また、いただいたご提案において、学校で即座に改善できるものは速やかに検討を開始し、学校の権限を超えるものは、PTAを通じて関係機関へ働きかけをしていただくなど、模索してまいります。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。